

【川の記憶】

文/日下龍生

本堂移築

写真左の赤い屋根が阿武隈川を利用して運ばれた旧安養寺本堂



昭和56年7月、船岡駅構内自由通路開通



昭和58年9月、柴田町史資料編Ⅰを発売



昭和59年4月、保健センター完成



昭和60年、建設中の柴田高等学校

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

- 昭和五十六年
 - 三月◆柴田町公害防止資金融資要綱を告示／西船迫町営住宅を建設。
 - 四月◆新学校給食センターが船迫地区に完成／ブラジル国アシス・シャドリアン市と友好都市を締結／富上児童館が富上分校跡地に完成／町制二十五周年記念式典開催。
 - 五月◆町民いこいの森を整備／榎木体育館が榎木小学校跡地に完成。
 - 六月◆八入地区の土地区画整理事業に着手。
 - 七月◆船岡駅構内自由通路が開通／新柴田町商工会館が完成。
 - 十二月◆船岡体育館が仙台大学わきに完成／榎木に(公)食料品小売センターが完成。
- 昭和五十七年
 - 一月◆四日市場に大気汚染観測所を設置。
 - 二月◆生涯教育総合施設用地造成工事始まる(入間田)。
 - 四月◆柴田大橋が開通。
 - 六月◆東北新幹線が開業。
 - 八月◆(船岡城址公園と目千本楼)が東北観光地六〇景に選ばれる。
 - 九月◆台風一八号で大被害。
 - 十月◆三年連続の不作／榎木で「緑化推進事業記念植樹祭」。
- 昭和五十八年
 - 四月◆西住小学校が開校／西船迫保育所が開所／「広報しばた」お知らせ版発行始まる。
 - 七月◆農村環境改善センター開館。
 - 八月◆船岡小学校校舎改築第一期工事が完成。
 - 九月◆「柴田町史」資料編Ⅰ発行。
 - 昭和五十九年
 - 三月◆船岡駅前町営住宅完成。
 - 四月◆「アメニティ・タウン計画」を策定／町保健センターが完成、五月から使用開始。
 - 六月◆柴田町下水道条例施行。
 - 八月◆太陽の村に天体望遠鏡設置／柴田町コミュニティセンターが開館。
 - 九月◆第一回水防防災訓練を実施／船岡東地区で住居表示実施。
 - 十月◆五年ぶりの豊作。
 - 昭和六十年
 - 一月◆榎木地区二部で下水道の供用開始／北上市と姉妹都市締結五周年記念式典を挙げる。
 - 四月◆柴田町環境美化の促進に関する条例を制定。
 - 十月◆新柴田衛生センターが操業開始／史上最高の大豊作。
 - 十一月◆柴田高架線が開通し柴田大橋に接続／仙南地域職業訓練センターが完成(翌年一月開所)。
 - 十二月◆柴田バイパスが全線開通。

榎木の東禅寺には新旧二つの本堂があります。

旧本堂は、明治六年、角田にあった安養寺(廃寺)の本堂を移築したもので、解体した部材はいかに組んで阿武隈川を利用して運ばれました。

同寺先住はこの時の様子を

「御寺が白幡ノ渡場ニ到着セリトノ報町内ニ伝ハルヤ、各戸毎ニ伝令ヲ発シ、町内割ルルガ如キ大混乱ヲ呈シ老ヒモ若キモ渡場ニ押シ掛ケ、サナガラ將軍ノ出迎ヒノ如」であったと記しています。

Epoch-making...⑪ April 17th, 1982

通学や産業貨物など交通量増加への対策として、町は昭和三十七年都市計画街路事業で決定を受けていた大橋通線柴田大橋および左岸取り付け道路の事業化を急ぎました。昭和五十三年に県事業として着工した柴田大橋および左岸取り付け道路事業は、四年の歳月と二億九〇〇万円の事業費をかけ、昭和五十七年四月十七日に竣工。同日、多くの町民が参列して、盛大な開通式が行われました。

柴田大橋の完成は白石川両岸地区を結び主要幹線橋として、町の発展に大きく貢献した。



昭和57年

昭和53年から着工された県事業の柴田大橋および左岸取り付け道路工事は、4年余の歳月と事業費13億9000万円をかけ、昭和57年4月17日、開通式を迎えた。

町民が久しく待望した「柴田大橋」が開通。

九八〇年代に入ると、国内では地方分権を推進する動きが盛んになり、大都市から地方への高速道路や新幹線など高速交通網の整備が促進されました。また、地域の魅力が改めて見直され始め、柴田町も「豊かで住みよいまちづくり」を基本理念に、船迫住宅団地への住宅建築の促進や区画整備事業を推進。また県内の各種補助事業を積極的に取り入れ、まちの躍進をめざしました。

Epoch-making...⑫ December 12th, 1985

をかけ、昭和六〇年十二月十二日、柴田バイパス全線暫定二車線がついに開通しました。翌年からは、さらに榎木高架線も含めた五・九キロメートルの四車線工事が着手され、平成元年十二月に全線四車線が実現。この開通によって車の流れが変わり、榎木・船岡地区市街地の渋滞が緩和されました。



昭和60年

仙南地区の発展に伴い、主要幹線道路の交通量が急増し、市街地の渋滞緩和のために、国道4号バイパス工事に着手。昭和60年12月12日、柴田バイパス全線がついに開通した。

国道四号柴田バイパスが全線開通。

昭和四十年代に入り、仙南地域の経済活動が活発になってくると、産業車や自家用車による交通量が年々増加。町の主要幹線道路である国道四号の市街地部分では、車の渋滞が多く見られるようになり、人通りも多いため、交通事故や排気ガス、粉塵・騒音などの心配が懸念されました。特に白幡橋付近は、国道四号と国道三四九号が合流することから、朝夕の渋滞が著しく、昭和四十七年初めには、一日二万台を超える車が往來するようになっていました。

柴田バイパスの開通により、仙南圏と仙台圏をつなぐ新ルートが誕生。人や車の流れが一変した。



昭和56年、学校給食センターが完成

柴田町の出来事 昭和五十六年〇昭和六十年

【川の記憶】

文/日下龍生

名取用水の取水口(一)



名取用水(稲荷山用水)沿いに植えられたツキノキテヤキは町名の由来と誤伝されたことも

今は蓋でおおわれ歩道となつていますが、槻木の町並みの北側を流れる名取用水はここに住む人々にとつて最も身近な川でした。取水口は明治四十年頃に白幡に設けられたものです。現在の堰堤は昭和四十二年に完成したものです。古い取水口はもつと上流の土平にあり、ここに稲荷坂があり、稲荷山用水の別称はここに由来します。しかし、元禄十年(一六九七)頃に作成された地図ではさらに上流の船迫岩城附近から取水されています。



昭和61年4月、町制30周年記念式典を開催



昭和61年5月、総合運動場が完成



昭和61年8月、集中豪雨により、被害総額207,000万円に及んだ



平成元年8月、国体東北ブロック大会(水球・なぎなた)が開催された

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

【平成二年】 一月 ◆北上市との姉妹都市締結10周年記念式典を開催。 四月 ◆船岡城址公園・白石川堤が全国さくら名所100選に選ばれる。 八月 ◆船岡駅舎と「ミニシティプラザ」縦の木広場が完成/県内でインターハイが開催、柴田町は水球競技会場となる/船岡駅舎が落成。 十月 ◆ふるさと交流事業「ふるさとiカンパニー」発会式。



平成2年10月、ふるさとiカンパニー発会式を開催

Epoch-making...⑬ April 8th, 1986

多数の町民が参加しました。そして同月二十八日には工事安全祈願祭が開催され、校舎建設が着工となりました。 県立柴田高校は、普通科四クラスのほか、県内では初めての体育科二クラスを設置。体育科は全県学区制で、推薦制度も導入。町外から入学する生徒の場合は下宿となり、そのため多くの町民の方々の温かい支援と協力に見守られ、県立柴田高校がスタートとなりました。

県立柴田高校には、普通科のほか、県内で初めての体育科を設置。町民の熱い支援とともにスタートした。



昭和61年

昭和47年、「県立高校誘致促進期成同盟会」が発足し、町をあげての積極的な高校誘致運動を推進。昭和61年4月、永年にわたる町民の悲願が達成した。

県立柴田高校が開校 永年にわたる悲願が達成。

【宮】 城立柴田高等学校が開校し、和六十二年四月八日に開校し、同日、第一回入学式が同校体育館にて開催されました。かねてから、町に高等学校の設置をという願いが柴田町にはあり、これを具体化する動きとして、昭和四十七年、「県立高校誘致促進期成同盟会」が発足しました。以来、町をあげての積極的な高校誘致運動が展開され、その永年にわたる町民の熱意が実って、県立高校の設置が決定。同六十年七月十八日に船岡中学校において開催された学校説明会には、

Epoch-making...⑭ August 4th, 1990

が建設されました。平成二年八月四日、建設費三億六〇〇〇万円を投じ、町コミュニティプラザを併設した新船岡駅が完成しました。駅舎玄関前広場には、町の木である縦の木が植えられ、「縦の木広場」と名称。また郷土出身の彫刻家小室達作のブロンズ像も配置されました。

平成2年

老朽化した船岡駅舎の改修を検討するJRと駅前活性化を願う柴田町との共同事業で城下町・柴田にふさわしい城型の新船岡駅舎を建設。



【柴】 田町の玄関口のひとつであるJR東北本線船岡駅が開業したのは、昭和四年。その後十四年に第二海軍火薬庫が開業されると、駅前通りは軍馬や人の往来が激しくなります。しかし終戦で火薬庫が開業されると、乗降客は激減。加えて高度経済成長期を迎え、自家用車の所有が増えたため、仙台まで約三十分という利便性にもかかわらず、船岡駅の乗降客数は伸び悩みました。その後国鉄は民営化され、老朽化した船岡駅舎の改修や集客方法を検討していた東日本旅客鉄道株式会社と、船岡駅前の活性化を検討していた町とによる、新駅舎建設共同事業がスタート。「個性豊かで地域密着型の駅舎」「町の観光開発と密着する形の駅舎」など検討した末、城下町・柴田にふさわしい城型駅舎

船岡駅舎・コミュニティプラザと縦の木広場が完成

柴田町を全国にアピールする新たな町の顔に。駅舎は、平成3年に建設省の「ふるさと手づくり賞」を受賞した。

柴田町の出来事 昭和六十一年〇平成二年

【昭和六十一年】 三月 ◆槻木地区で新住居表示を使用/西船迫町営住宅二号楼が完成/上川名構造改善センター完成。 四月 ◆宮城県立柴田高校が開校/町制施行30周年記念式典を町民体育館で開催。 五月 ◆総合運動場が完成。 六月 ◆第三セクター阿武隈急行線が先行開業(槻木・丸森間)。 八月 ◆集中豪雨による床上・床下浸水や田畑冠水などの大被害。 九月 ◆町制施行30周年記念「しばたフェスティバル・メモリアル30」を総合運動場にて開催。 十一月 ◆第一回あぶくまサミットをサンプラザにて開催/町制30周年記念「仮装大会」を開催。 【昭和六十二年】 一月 ◆仙台市在住中国人留学生を招き「国際交流青年の集い」を「ミニシティセンター」にて開催。 三月 ◆生涯教育総合施設用地(入間田内)造成工事が完了。 四月 ◆船迫中学校が開校。 六月 ◆県内初の水球プールおよびトレーニングセンターが完成。 八月 ◆太陽の村開村10周年記念まつり開催/八・五豪雨災害を教訓に町民防災の日と定め「町民防災訓練」実施/「しばた21フォーラム」開催。 【昭和六十三年】 三月 ◆柴田町新長期総合計画(しばた21)を策定/第一回柴田町民綱引大会を開催。 四月 ◆東船岡小学校が開校。 五月 ◆北海道伊達市と歴史友好都市を締結。 六月 ◆宮城県沖地震から10年を機に「六・二柴田町総合防災訓練」を実施。

【川の記憶】

文/日下龍生

名取用水の取水口(二)

船迫岩城に残る三ヶ村環の取水口



船迫岩城附近から取水されていた名取用水。しかし、安永の頃(七七〇年代)にはこの取水口は三ヶ村用水の取水口となっており、名取用水は土平から取水しています。盛岡藩の絵師清水秋全は「山七つほりぬき名取郡六万石」の用水で、「江戸出口より是に至るまでの用水普請の殊勝と申すべきか」と記しています(七五一年)。一方、三ヶ村用水とは船迫、入間野(槻木)、四日市場の用水で、取水口を上流に移し、一部は今も活用されています。



平成3年1月、槻木駅開業100周年記念式典



平成6年2月、中国丹陽市と姉妹都市締結調印



平成6年4月、しばたの郷土館開館式を挙行



平成7年11月、第5回伊達開拓「ふるさと従兄弟(い〜とこ)」サミット開催

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

- 三月 ◆ 町道下名生二八号線開通式 / 町道船迫二号線・都市計画道路大橋通線開通式。
- 四月 ◆ 槻木文化センターの落成開館式。
- 七月 ◆ 槻木大橋の開通式と小山渡し舟納め式を盛大に挙行。
- 八月 ◆ 柴田町制施行四〇周年記念「AZ9アートフェスティバルinしばた」開催。
- 九月 ◆ 旧第一海軍火薬庫追憶五〇年記念大会が挙行。
- 十一月 ◆ 全日本菊花コンクールが柴田町民体育館ほかで盛大に開催 / 伊達開拓「ふるさと従兄弟(い〜とこ)」サミットが柴田町を会場に開催。

Epoch-making... ⑮ April 26th, 1995

六日、槻木文化センター(槻木公民館)が、文化コミュニティ施設を兼ね備えた新しい形の公民館に生まれ変わり、この日、柴田町制施行四〇周年記念を兼ねた「槻木文化センター落成開館式」が開催されました。この槻木文化センターには、図書室や創作室、研修室、和室のほか、一度に三〇〇人余が収容できる多目的ホールも設置。現在も町民の生涯学習を支援する拠点施設として、広く親しまれ活用されています。

1年余りの歳月と事業費12億円をかけ、町民待望の生涯学習を支援する拠点施設がオープンした。



平成7年

「生涯教育モデル町」指定の柴田町において、住民の文化活動の発表の場や鑑賞できる施設を望む声を受け、町は文化センターづくりに着手した。

槻木文化センターがオープン。

和五十一年に「生涯教育モデル町」の指定を受けた柴田町は、生涯学習の推進を図るため、小学校・公民館・コミュニティを目標に、施設整備を図ってきました。しかしその一方で、学習成果を発表できる適当な施設や、また芸術作品を鑑賞できるホールがなく、その設置が強く望まれていました。その声を受け、町では「優れた芸術文化活動やその鑑賞の場が提供できる施設」さらに「地域の人々が親しみ易く、生涯学習の期待に応えられる文化センターづくり」に着手しました。そして平成七年四月二十

Epoch-making... ⑯ July 7th, 1995

平成七年七月七日、このめでたい日に「槻木大橋」の開通式と、「小山渡し舟納め式」が、大勢の住民が参加して盛大に挙行。槻木大橋の完成により、住民の生活圏は拡大され、阿武隈川兩岸の市町を結ぶ新しい交通路線が確保されました。



昭和三十六年四月、橋梁建設が見送られるなか、「小山渡し」の県営化が実現。しかし、住民の橋梁建設の要望は高まる一方で、町や住民は幾度も関係機関への陳情請願を行い、約半世紀もの年月を経て、ようやく平成元年から橋梁建設に着手し、

住民が長い間待ち望んだ希望の橋、「槻木大橋」が開通した同じ日に、「小山渡し」は長い歴史の幕を閉じた。

阿武隈川の兩岸を結ぶ 悲願の槻木大橋が完成。

約半世紀もの長い間、住民が待ち望んだ阿武隈川の兩岸を結ぶ、悲願の大橋が完成。全長777.7mの槻木大橋が、めでたい7づくしの日に開通した。

木地区の人々にとって、阿武隈川の「小山渡し」は、江戸時代前から続く重要な交通手段でした。しかし時代が進み人々の生活圏が広がるなか、嵐などで舟止めになった時や、急病人や急用ができた場合、身動きがとれない苦勞を重ねていました。また近くに橋がなく、上流の東根橋や下流の阿武隈橋まで迂回する方法はかなりの時間を要したため、早急な橋梁建設が望まれていました。

柴田町の出来事 平成三年(〇)平成七年

- 平成三年
 - 一月 ◆ JR東北本線槻木駅開業二〇周年記念式典。
 - 三月 ◆ デイ・サービスセンター「さくら苑」開所。
 - 四月 ◆ ふるさと文化伝承館がオープン。
 - 五月 ◆ クラウン少女合唱団コンサート開催。
 - 六月 ◆ 柴田小学校落成記念式典を開催 / 船迫公民館が完成。
 - 七月 ◆ 米輸入自由化反対宣言の一環として「農業・農村と米を守る懇談会」を開催。
 - 八月 ◆ 「広報しばた」三〇周年記念号を発行。
 - 十月 ◆ われらみやぎの東北学おこし事業として「立石長者の宝さがし」を開催。
- 平成四年
 - 三月 ◆ もみのき園落成式。
 - 四月 ◆ 槻木駅前町営住宅(二階建)が完成、入居開始。
 - 五月 ◆ 西住公民館が開館 / 柴田高校に県内初の室内プール完成。
 - 八月 ◆ 県政懇談会「動く知事室」。
 - 九月 ◆ 三町共同推進事業協議会設立。
 - 十一月 ◆ 船岡三二号線(大沼通り線)開通式。
- 平成五年
 - 四月 ◆ 資料展示館「思源閣」開館。
 - 五月 ◆ 船迫一四号線ほか一道路が全線開通。
 - 九月 ◆ (仮称)柴田町産業展示館の建設工事に着手。
 - 十二月 ◆ 柴田町各種婦人団体連絡協議会創立二〇周年記念式典と作家・藤原てい氏による記念講演会開催。
- 平成六年
 - 二月 ◆ 中国丹陽市と姉妹都市を締結。
 - 四月 ◆ しばたの郷土館の全施設が完成し、開館式。
 - 九月 ◆ 三日の局地豪雨で総額二三億円の被害。
 - 十一月 ◆ '94スポーツフェスティバルin柴田を開催。
- 平成七年
 - 三月 ◆ 町道下名生二八号線開通式 / 町道船迫二号線・都市計画道路大橋通線開通式。
 - 四月 ◆ 槻木文化センターの落成開館式。
 - 七月 ◆ 槻木大橋の開通式と小山渡し舟納め式を盛大に挙行。
 - 八月 ◆ 柴田町制施行四〇周年記念「AZ9アートフェスティバルinしばた」開催。
 - 九月 ◆ 旧第一海軍火薬庫追憶五〇年記念大会が挙行。
 - 十一月 ◆ 全日本菊花コンクールが柴田町民体育館ほかで盛大に開催 / 伊達開拓「ふるさと従兄弟(い〜とこ)」サミットが柴田町を会場に開催。



平成6年1月、槻木文化センター安全祈願祭を開催

【川の記憶】

文/日下龍生

槻木の土手(二)

四日市場の堤防下をボンネットバスが行く。写真の松並木は戦後伐られた



「長町や中田の馬を増田まで、もの岩沼に槻木の土手」と『道中往来』に詠われた「槻木の土手」はいつごろ築かれたものでしょう。道中往来の初版は文化十三年(一八二〇)の洪水でふくべ沼ができたという(これは、この当時すでに堤防が築かれていたということ)です。



平成8年4月、さくらの会が1,000本記念植樹を行う



平成9年8月、宮城国体準備委員会の設立総会開催



平成10年6月、女と男いきいきフォーラム開催



平成12年11月、優良田園住宅「ゆずが丘」第1期販売開始

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

- 平成十二年
四月◆柴田町土地改良区誕生／ふるさと懇談会開催、浅野知事来町。
七月◆国際姉妹都市・中国丹陽市から農業研修員(五人)が来町／国体リハサル大会水球競技が開催。
八月◆県南中核病院の建設に着手／まちづくりフォーラム開催。
十一月◆優良田園住宅「ゆずが丘」第1期販売開始。

Epoch-making... October 20th, 1996

約二五〇人が参列。当日午前九時半から槻木中グラウンドで行われた出立の儀でスタートし、槻木地区と船岡地区の二コースを練り歩いて行われた、実に勇壮華麗な行列でした。この武者行列は、町の歴史友好都市である北海道伊達市より、武者装束一式を借り受けて市職員の方々のご協力、また以前から交流のあった福島県鹿島町の騎馬保存会の強力な支援を得て実現、成功いたしました。

町民250人が武者装束で参列し、町名の祖である柴田氏の再入府を再現。勇壮華麗な武者行列が挙行された。



Epoch-making... November 3rd, 2000

平成十二年五月十一日、全国初の認定事業となった入間田地区内の優良田園住宅「ゆずが丘」の建設起工式が行われ、一区画五〇〇平方メートル以上、四〇区画の宅地造成工事が着工。同年十一月三日から、第一期、四〇区画の販売が開始されました。これにより、柴田町の自然を生かした、ゆとりある住宅地が誕生します。



昭和31年に柴田町が誕生してから40周年、町の人口は3万8000人を越える県内一の町に成長。その発展を祝い、町民250人が参列して「柴田武者行列」を挙行した。

町制施行四〇周年の節目 柴田武者行列。

平成八年は、柴田町が昭和三十一年四月に誕生してちょうど四〇周年になる年でした。町では、四月に町制四〇周年記念式典を開催したほか、各種記念行事を行い、町民とともに節目の年を祝いました。なかでも、しばた菊人形まつり開幕の日の十月二十日に行われた記念行事「柴田武者行列」は、柴田町発足の際、旧藩時代に居城を構えた伊達家の重臣・柴田氏の名字から新町名をいただき発展してきたことを記念して、町名の祖・柴田氏の再入府を再現したもので、行列には町民

平成8年

平成12年

入間田地内に造成されていた、全国初の優良田園住宅「ゆずが丘」の第1期販売がスタート。町の自然を生かした、ゆとり型住宅地が創出され始めた。

優良田園住宅 「ゆずが丘」販売開始。

柴田町では平成十一年十月、優良田園住宅事業を推進するための基本方針を定めました。優良田園住宅事業とは、農山村地域や都市近郊など豊かな自然環境を生かしながら、ゆとりある良質な住宅地を創出するもので、この事業に認定されると、市街化調整区域や農用地区域内でも住宅が建てられ、また住宅に対する税制面などで優遇措置の対象となるというものです。一方、同月に仙南優良田園住宅株式会社が設立され、柴田町の入間田地区約三ヘクタールの区域を優良田園住宅地とする開発計画が決まり、町では、自然環境との調和と限りある土地有効活用、また地域の活性化を見込みこの事業への協力を決めました。

多様化する生活様式にあわせて、柴田町の豊かな自然を生かし、風土と調和したゆとりある田園住宅地の開発が進められた。

柴田町の出来事 平成八年〇平成十二年

- 平成八年
四月◆町制施行四〇周年記念式典を開催／柴田町新長期総合計画(しばた21)後期基本計画を策定。
八月◆町制施行四〇周年記念事業「ミズしばたコンテスト」を開催。
十月◆町制施行四〇周年記念、柴田武者行列を挙行／仙南芸術センター(えずこホール)落成記念式典／「シルバー・ナースリーはやま」オープン式／船岡東部土地画整備事業が完了。
十一月◆しばたシネマまつり開催。
十二月◆山下町管住宅が完成／大河原衛生センターが完成。
平成九年
二月◆柴田町行財政改革大綱を策定。
四月◆産業展示館に工業製品展示室がオープン。
七月◆三町(柴田・大河原・村田)が組合立総合病院建設に合意。
十月◆(仮称)東船岡コミュニティセンター工事を完了。
十一月◆下名生剣水土地画整理事業が完了。



平成10年6月、槻木駅舎とコミュニティプラザの合築工事が完成

- 平成十年
二月◆東船岡コミュニティセンターが開館。
三月◆柴田訪問看護ステーション開所。
四月◆横町・船泊コミュニティ消防センターが完成。
十一月◆入間田地区内の優良田園住宅「ゆずが丘」の建設起工式が行われ、一区画五〇〇平方メートル以上、四〇区画の宅地造成工事が着工。同年十一月三日から、第一期、四〇区画の販売が開始されました。これにより、柴田町の自然を生かした、ゆとりある住宅地が誕生します。

【川の記憶】

文/日下龍生

槻木の土手(二)

昭和61年8月5日の集中豪雨時の阿武隈・白石両河川の増水状況



阿武隈・白石両河川の堤防が現在のようになつたのは明治四十三年と大正二年の二度、大洪水に見舞われたのがきっかけでした。白石川は大きく蛇行していた河道をまっすぐにしました。下名生では川辺の集落が移住して堤防が築かれます。藩政時代からあった「槻木の土手」は河川敷を掘って高上げされていきます。工事は大恐慌や戦争などで中断の危機に見舞われますが、角田の青年団を中心に活発な継続運動が展開され、昭和四十九年によりやく完成しました。



平成13年3月、さくら歩道橋開通式を挙げる



平成13年4月、第1回柴田さくらマラソン大会開催



平成14年5月、シルバー人材センターが設立



平成17年、100回目を迎えたミニデイサービス「ふれあいの会」

通史 The History of Shibata Town 大らかな流れのなかで

- 平成十三年、さくら歩道橋開通式。
平成十四年、NHK仙台放送局「ぶっつけ本番」わがまちいちばん「柴田町」を公開収録、二月三日に県内放送。
平成十五年、NHK仙台放送局「ぶっつけ本番」わがまちいちばん「柴田町」を公開収録、二月三日に県内放送。
平成十六年、スペシャルオリンピックを支援する聖火リレーが町を通過。
平成十七年、三町合併住民投票実施。
平成十八年、三町合併協議会が廃止、三町合併協議会の廃止議案が可決。
平成十九年、新生した行政改革「住民懇談会」を開催、多機能型地域ケアホーム「ふなおか」・「つきのき」がオープン。
平成二十年、災害ボランティアセンター「第一回ネットワーク推進会議開催」。
平成二十一年、さくら船岡大橋開通。

Epoch-making... ⑱ September, 2001

ルが柴田高校の敷地隣に完成し、翌十二年七月に国体リハーサル水球大会を開催。また町民ボランティアの協力など大会を盛り上げました。開催期間中は、秋篠宮同妃両殿下が水球競技をご覧のためご来町され、またウエイトリフティング競技には、三笠宮寛仁親王妃信子殿下がご来場になりました。大会は、多くの町民ボランティアや競技関係者の協力で、大成功のうちに終了しました。

町の準備委員会が開催前から準備を進め、多くの町民の協力と熱い声援とで、大会は盛り上がり、大成功に終わった。



平成13年

第56回国民体育大会が県内各地を会場に開催され、柴田町は、夏季大会水球競技と秋季大会ウエイトリフティングの競技会場となり、町民も一体となって大会を盛り上げた。

いいね！その汗、その笑顔 「新世紀・みやぎ国体」開幕。

平成十三年、第五六回国民体育大会「新世紀・みやぎ国体」が、県内各地を会場に開催されました。柴田町では、夏季大会水球競技が九月八日から十一日までの四日間、県水球プールを会場に開催。また、秋季大会ウエイトリフティング競技が十月四日から十七日までの二週間にわたり、柴田高校体育館にて開催されました。柴田町では、開催競技が決定した時から準備委員会を発足して、開催に向け準備を進めてきました。そして平成十一年六月には、県水球プー

Epoch-making... ⑳ November, 2005

平成七年度から二部工事が実施されてきたのを、同十一年度から県の事業として整備。平成十七年十一月十五日、約十年の歳月と事業費約六四億円をかけ、待望の「さくら船岡大橋」が開通しました。この「さくら船岡大橋」で結ぶ大沼通線は、同十八年度完成予定の新栄通線と接続され、さらなる町発展が期待されます。



平成17年

国道4号線の付け替えで交通量が激増。柴田大橋と白幡橋の朝夕の渋滞緩和のため、約10年の歳月をかけ、待望の「さくら船岡大橋」が開通した。

未来への架け橋 「さくら船岡大橋」開通。

田町を東西に流れ、町の四季を彩る白石川。その両岸を結ぶ柴田大橋と白幡橋は、国道四号が船迫地区に付け替えされたことで交通量が激増し、朝夕の渋滞が最大の課題となっていました。そのため、中間地点への橋の新設が町民の大きな要請となりました。国の街路事業の採択が困難な状況のなか、町では各地区で組合施行の土地区画整理事業が数多く進められているのを受け、平成五年度に「柴田町中南部地区優良宅地段階整理誘導計画」を策定。これが平成六年三月に建設大臣から承認され、さらに住宅関連の整備事業採択に向けて陳情を重ねた結果、平成八年度に事業採択を受けることができ、これによって橋梁の早期実現が叶いました。

平成18年度には新栄通線と連結。新たな都市整備も計画され、町発展への未来の架け橋として期待。

柴田町の出来事 平成十三年の平成十七年

- 平成十三年、さくら歩道橋開通式。
平成十四年、NHK仙台放送局「ぶっつけ本番」わがまちいちばん「柴田町」を公開収録、二月三日に県内放送。
平成十五年、NHK仙台放送局「ぶっつけ本番」わがまちいちばん「柴田町」を公開収録、二月三日に県内放送。
平成十六年、スペシャルオリンピックを支援する聖火リレーが町を通過。
平成十七年、三町合併住民投票実施。
平成十八年、三町合併協議会が廃止、三町合併協議会の廃止議案が可決。
平成十九年、新生した行政改革「住民懇談会」を開催、多機能型地域ケアホーム「ふなおか」・「つきのき」がオープン。
平成二十年、災害ボランティアセンター「第一回ネットワーク推進会議開催」。
平成二十一年、さくら船岡大橋開通。